

横浜市立 神奈川中学校 学校評価報告書 (令和4～6年度)

重点取組分野	令和4年度		総括	重点取組分野	令和5年度		総括	重点取組分野	令和6年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①生徒の実態に応じた教科相談を実施していくとともに、学級学習の日を活用し、教科の補習等を行う。 ②授業見学や研究授業の際に参観メモを活用する等の工夫を通じて授業者へのフィードバックを確実にし、参観者・授業者共に研究を深める。	①教科相談は定期テスト前に2回実施することができた。また、学級学習の日を各学年の実態に応じて計画的に活用することができた。 ②研究授業の形で、初任者の研究授業以外にも、ほとんど行うことができなかったが、校内を巡回する中で教職員が授業を参観しあい、意見交換するようにした。	B	授業改善	①生徒の実態に応じた教科相談を実施していくとともに、学級学習の日を活用し、教科の補習等を行う。 ②授業見学や研究授業の際に参観メモを活用する等の工夫を通じて授業者へのフィードバックを確実にし、参観者・授業者共に研究を深める。	①年2回の教科相談を設定する他、学級学習の日に教科の補習を行うことができた。 ②授業見学や参観メモの活用がなかなかつれなかったことは残念であるが、今後の授業改善に向けて、よりよくなるための工夫を考えていきたい。	B	授業改善	①生徒の実態に応じた教科相談を実施していくとともに、学級学習の日を活用し、教科の補習等を行う。 ②授業見学や研究授業の際に参観メモを活用する等の工夫を通じて授業者へのフィードバックを確実にし、参観者・授業者共に研究を深める。		
道徳教育	①「特別の教科 道徳」のより充実した授業展開に向け、指導と評価のあり方等について全職員で研修を行う。 ②確かな人権感覚や意識を育成するため、各行事のねらいに「仲間を大切に育てる態度の育成」を明記する。併せて、教師が生徒を、生徒が他の生徒を「認め・褒める場面」と「具体的方法」を実施要項に明記する。	①学期はじめに、評価の仕方等の研修を行った。 ②行事を行う際には、必ず確かな人権感覚や意識の育成のためのねらいを明記した。「認め・褒める場面」と「具体的方法」については、概ね達成しているが、記載のない場合もあったため、次年度以降も明記するよう意識づけを行っていく。	B	道徳教育	①「特別の教科 道徳」のより充実した授業展開に向け指導と評価のあり方等について全職員で研修を行う。 ②確かな人権感覚や意識を育成するため、各行事のねらいに「仲間を大切に育てる態度の育成」を明記する。併せて、教師が生徒を、生徒が他の生徒を「認め・褒める場面」と「具体的方法」を実施要項に明記する。	道徳の授業においては互いの考え方や価値観を認めながら、自身の考えを深めていく授業を展開していくことができた。また、日々の学校生活や行事でも生徒たちが自分たちの手で活動していくなかで教師と生徒、生徒同士が互いを認め合い、考えを共有しながら活動することができた。	B	道徳教育	①「特別の教科 道徳」のより充実した授業展開に向け指導と評価のあり方等について全職員で研修を行う。 ②確かな人権感覚や意識を育成するため、各行事のねらいに「仲間を大切に育てる態度の育成」を明記する。併せて、教師が生徒を、生徒が他の生徒を「認め・褒める場面」と「具体的方法」を実施要項に明記する。		
健康教育	①「健やかな体の育成プラン」に基づき、「体力・運動能力調査」や「学力・学習状況調査の生活・学習意識調査」等の結果を振り返り、自己の健康に興味をもたせ、体力向上や生活習慣の改善の意識を持たせたい。 ②昼食や家庭科の授業等において食育の推進をはかる。	①新体力テストの結果に基づきを振り返りを行い、課題を確認し自己の体力向上やに向けて考えを深めることができた。また、自身の生活習慣を見直し、積極的に運動を取り入れることの大切さを学ぶ場面をつくることができた。 ②保健体育科の保健分野において食生活と健康の単元を学習し、家庭科において健康的な生活に向けて自身の食生活を見直す課題などに取り組んだ。	A	健康教育	①「健やかな体の育成プラン」に基づき、「体力・運動能力調査」や「学力・学習状況調査の生活・学習意識調査」等の結果を振り返り、自己の健康に興味をもたせ、体力向上や生活習慣の改善の意識を持たせたい。 ②昼食や家庭科の授業等において食育の推進をはかる。	①新体力テストの結果を活用して、自分自身の体力の状況などを把握し、授業に活かそうとする姿が見られた。また、昼休みにも外に出て遊ぶ生徒が増え、運動に対する関心が高まっている。 ②教科活動内だけでなく、小学校の栄養教諭と連携し、昼食時の放送を活用し、食育の推進をはかった。	A	健康教育	①「健やかな体の育成プラン」に基づき、「体力・運動能力調査」や「学力・学習状況調査の生活・学習意識調査」等の結果を振り返り、自己の健康に興味をもたせ、体力向上や生活習慣の改善の意識を持たせたい。 ②昼食や家庭科の授業等において食育の推進をはかる。		
キャリア教育	①1・2年生の職業体験先事業所の精選を行うとともに、体験時間の確保や同一事業所での体験の可能性を探る。 ②将来必要な知識・技能・心構え等を身に付けるキャリア学習を3年間を通じて計画的に行う。また進路コーナーに受験案内や過去問、高校パンフレット等を置いて、生徒が必要に応じて利用できるようにする。	①地域コーディネーターを通じて依頼する形で、1・2年生とも職業講話・体験を実施した。1年生は講義、2年生は体験と講話の学習に取り組んだ。 ②1・2年生ともに、職業調べ・インタビュー等のキャリア教育学習に取り組んだ。また、3年生は進路調べ学習に取り組む中で卒業後の進路への関心が高まり、進路コーナーを利用する場面も多くなった。	B	キャリア教育	①1・2年生の職業講話・体験の授業を通じて、生徒自身の「生きる力」の育成をはかる。 ②将来必要な知識・技能・心構え等を身に付けるキャリア学習を3年間を通じて計画的に行う。また進路コーナーに受験案内や過去問、高校パンフレット等を置いて、生徒が必要に応じて利用できるようにする。	①職業講話や体験を通して、普段はあまり考えることのないであろう「働くこと」や「生きる力」について考えるきっかけにはなっている。次年度からは業者委託をして、より継続的に行っていく。 ②①でも記入したように、次年度からは業者と連携し、より継続的に行っていくようになる。	B	キャリア教育	①1・2年生の職業講話・体験の授業を通じて、生徒自身の「生きる力」の育成をはかる。 ②将来必要な知識・技能・心構え等を身に付けるキャリア学習を3年間を通じて計画的に行う。また進路コーナーに受験案内や過去問、高校パンフレット等を置いて、生徒が必要に応じて利用できるようにする。		
いじめへの対応	①学期はじめにアンケートや教育相談を実施するとともに、定期的にいじめ防止対策委員会を実施して情報共有する。YPアセスメントを実施し、生徒一人ひとりの状況把握に努める。 ②PTA・地域・生徒・職員であいさつ運動を実施する。 ③日頃から受容的な環境づくりを意識した声かけ等を職員全体で意識して行う。	①アンケートや教育相談を計画的に実施することができた。いじめ防止対策委員会では情報共有を密にして、早期発見・早期対応することができた。YPアセスメントを実施し、生徒の一人ひとりの状況把握に努めることができた。 ②あいさつ運動を実施することができた。 ③日頃から職員から積極的に声かけをして生徒が安心できる環境づくりに努めた。	B	いじめへの対応	①学期はじめにアンケートや教育相談を実施するとともに、定期的にいじめ防止対策委員会を実施して情報共有する。YPアセスメントを実施し、生徒一人ひとりの状況把握に努める。 ②PTA・地域・生徒・職員であいさつ運動を実施する。 ③日頃から受容的な環境づくりを意識した声かけ等を職員全体で意識して行う。	①記名式のアンケートや教育相談を計画的に実施することができた。いじめ防止対策委員会ではいじめの早期発見・早期対応することができた。YPアセスメントを実施し、生徒の一人ひとりの状況把握に努めることができた。 ②あいさつ運動を実施することができた。 ③日頃から生徒へ積極的に声かけを行い、生徒が安心できる環境づくりに努めた。	B	いじめへの対応	①学期はじめにアンケートや教育相談を実施するとともに、定期的にいじめ防止対策委員会を実施して情報共有する。YPアセスメントを実施し、生徒一人ひとりの状況把握に努める。 ②PTA・地域・生徒・職員であいさつ運動を実施する。 ③日頃から受容的な環境づくりを意識した声かけ等を職員全体で意識して行う。		
人材育成・組織運営(働き方)	①ミドルリーダーを中心としたメンターチームが授業研を含めた自主研修を計画的に企画し、経験の浅い教職員からなるメンターチームに実践させる等の研修を行う。 ②全てのステージの職員が力を発揮できるような組織運営に努める。 ③部活動指導員の活用を図り、ガイドラインに沿った持続可能な部活動を探る。	①日常的に、授業が参観できるよう声掛けを行い、各自に合わせた研修を行うことができた。 ②校務に様々なステージの職員が配分されるようバランスを考えた校務分掌の中でスキルアップ・人材育成を図ることができた。 ③部活動指導員の活用と、ガイドラインに沿った部活動運営を行うことができた。	B	人材育成・組織運営(働き方)	①ミドルリーダーを中心としたメンター研修担当が授業研を含めた研修を計画的に企画し、経験の浅い教職員に実践させる等の研修を行う。 ②全てのステージの職員が力を発揮できるような組織運営に努める。 ③部活動指導員の活用を図り、ガイドラインに沿った持続可能な部活動を探る。	①日常的に、授業が参観できるよう声掛けを行い、職員各々に合わせた研修を行った。 ②校務に様々なステージの職員が配分されるようバランスを考えた校務分掌の中でスキルアップ・人材育成を図った。 ③部活動指導員の活用を推進し、ガイドラインに沿った部活動運営を行った。	B	人材育成・組織運営(働き方)	①ミドルリーダーを中心とした研修担当が授業研を含めた研修を計画的に企画し、経験の浅い教職員に実践させる等の研修を行う。 ②全てのステージの職員が力を発揮できるような組織運営に努める。 ③部活動指導員の活用を図り、ガイドラインに沿った持続可能な部活動を探る。		
地域学校共同活動	①学校運営協議会と連携し、地域防災訓練や地域の祭り等の地域行事への生徒参加を企画・実施する。 ②地域事業所との職業体験・職場体験を学校地域コーディネーターと連携して、持続可能な行事として実施できるようにしていく。	①コロナ禍で生徒が参加できる地域行事も限られたが予定を生徒に伝えて、生徒の地域参加を奨励した。 ②地域コーディネーターを通じて、1・2年生とも職業体験学習を実施した。1年生は講義、2年生は体験と講話の学習に取り組んだ。	B	地域学校共同活動	①地域と連携し、地域防災訓練や地域の祭り等の地域行事への生徒参加をはかることで生徒自身が地域の一員である意識を高める。 ②地域コーディネーターを通じて、1・2年生とも職業体験学習を実施した。1年生は講義、2年生は体験と講話の学習に取り組んだ。 ③地域事業所との職業体験・職場体験を学校地域コーディネーターと連携して、持続可能な行事として実施できるようにしていく。	①生徒が参加できる地域行事が徐々に増えてきた。地域の行事予定を広報し、生徒の地域参加を奨励した。 ②地域コーディネーターを通じて、1・2年生とも職業体験学習を実施した。1年生は講義、2年生は体験と講話の学習に取り組んだ。	B	地域学校共同活動	①地域と連携し、地域防災訓練や地域の祭り等の地域行事への生徒参加をはかることで生徒自身が地域の一員である意識を高める。 ②地域事業所との職業体験・職場体験を学校地域コーディネーターと連携して、持続可能な行事として実施できるようにしていく。		
特別支援教育	①支援が必要な生徒の情報収集・発信・共有を確実に。学年会で支援教育についての項目を立て、話題になったことを必ず職員会議で報告する。 ②特別支援教育コーディネーターが中心となって、学校組織全体で特別支援室をより機能的に運営する。利用生徒の目標や今後の見通しを全職員で共有する。	①職員会議を通じて支援が必要な生徒の情報収集・発信・共有を行なうことができた。また、特別支援教育に関する研修を行うことができた。 ②特別支援教育コーディネーターが中心となって、特別支援室を円滑に運営することができた。利用生徒の状況についても共有することができた。	B	特別支援教育	①支援が必要な生徒の情報収集・発信・共有を確実に。学年会等で出た特別支援教育の課題は職員会議で全職員で共有する。 ②特別支援教育コーディネーターが中心となって、学校組織全体で特別支援室をより機能的に運営する。利用生徒の目標や今後の見通しを全職員で共有する。	①職員会議を通じて支援が必要な生徒の情報収集・発信・共有を行なうことができた。また、特別支援委員会でも支援を必要とする生徒への支援策を思案することができた。 ②特別支援教育コーディネーターが中心となって、特別支援室を円滑に運営することができた。利用生徒の情報共有も行うことができた。	B	特別支援教育	①支援が必要な生徒の情報収集・発信・共有を確実に。学年会等で出た特別支援教育の課題は職員会議で全職員で共有する。(国際教室対象生徒を含む) ②特別支援教育コーディネーターが中心となって、学校組織全体で特別支援室をより機能的に運営する。利用生徒の目標や今後の見通しを全職員で共有する。		
a14	a24		a14	b9		a14	c9				
a15	a25		a15	b10		a15	c10				
ブロック内評価後の気づき	「授業」のつながりでは、3つの育てたい資質能力をもとに、小中それぞれ授業公開を行い、各教科で研究協議をしたことで、9年間で育てる子どもの姿を共有できた。「人」のつながりでは、夏季休業中にSDGsの推進に向けて 株式会社大川印刷代表取締役社長 を迎えて、合同研修講演会を行った。企業のSDGsの推進についての具体的な取組を聞いて、仕事に対する向き合い方、働き方について多くの学びがあった。「学びの場」のつながりでは、小中交流日では、小中交流日、中学校生活の内容を具体的に知ることで、6年生の進学への不安解消につなげることができた。次年度以降も神奈川中ブロックの特色を出しながら、継続して連携を図ってきたい。		「授業」のつながりでは、3つの育てたい資質能力をもとに小中合同で教科・領域別部会を行い、情報共有と今後の施策を協議し、研究授業の方向性や教職員間の連携を深めることができた。「人」のつながりでは、小中双方に携わるSCを講師に迎え、児童生徒理解・保護者対応について実習を交えた合同研修会を行い、人との関係性の大切さを学んだ。「学びの場」のつながりでは、小中交流日に中学校生活を知ることで進学への不安解消につながり、ふれあいコンサートの音楽発表では、地域社会を含めた小中交流日を行い親交を深めることができた。また個別支援級では、独自の小中交流でクイズやレクを通して中学校生活をイメージすることができた。次年度以降も神奈川中ブロックの特色を出しながら、継続して連携を図っていく。	ブロック内評価後の気づき							
学校関係者評価	学校運営協議会等では、「生徒は教員との信頼関係が築かれ、落ち着いた学校生活が送れている。」「学校行事も一生懸命取り組んでいる生徒たちの姿を見ることができ感動した。」「今後も地域、家庭、小学校等と連携し、教育活動に繋げてほしい。」といった助言をいただいた。		学校運営協議会等では、代表生徒から直接の話を聞き、学校の説明を受けた中で、「生徒と教員との信頼関係が築かれており、生徒は充実した学校生活が送れている。」「コロナ禍も少しおさまってきた中で、学校の教育活動において生徒がのびのびと活動している様子が感じられる。」「今後も地域、家庭、小学校等と連携し、教育活動に繋げてほしい。」という助言をいただいた。また、授業改善についても、指導と評価の一体化を意識しつつ、生徒の資質能力を伸ばすための授業改善をさらに推進してほしいという助言をいただいた。	学校関係者評価							
中期取組目標振り返り	中期取組目標の実現に向けて、教職員各自がそれぞれの関係する部署や場面において取り組むことができた。今後も引き続き目標の実現に向けて、特に重点取組分野を意識して取り組んでいくことが大切である。中でも、特別支援教室の運営や該当生徒への支援、学習成績が振るわない生徒への支援等、特別支援の視点での授業改善等をさらに重視していく必要がある。		中期取組目標の実現に向けて、教職員各自がそれぞれの関係する分掌や日頃の教育活動において意識して取り組むことを推進した。今後も学校教育目標の実現に向けて、特に重点取組分野を意識して取り組んでいく。また、特別支援教室の運営、配慮が必要な生徒への支援、学習成績が振るわない生徒への支援等、特別支援の視点での授業改善や支援方法の検討等も、喫緊の課題として学校全体でとらえ、これからも組織的に課題解決に取り組んでいく。	中期取組目標振り返り							